

災害救助犬訓練のための場所提供のお願い

私達 Search And Rescue Dog チームは、災害に備えての訓練の場所を探しております。

解体前、解体中、解体後の建物、資材置き場、使われていない建物、空き地、山林、どのような場所でも構いません。

使用目的 震災及び行方不明者の捜索訓練

使用者 アジアワーキングドッグサポート協会傘下
救助犬チーム S. A. R. D.

人数及び頭数 9名 犬12頭

使用させていただける場合のお約束

瓦礫などの解体建物を使う場合には、ヘルメット、安全靴
装備の上です。

犬は吠えて発見のため、近隣に住宅があれば前もって
お断りの上行います。

災害救助活動保険に加入しています。

訓練中はバナーを張り行います。
(必要なければ、はずします)

安全面には細心の注意の上行っています。

企業及び団体の宣伝にどうぞご利用ください。

私達はボランティア活動として行っています。

S.A.R.D. 代表 下條 哉子

災害救助犬とは

昨今、いつ何処に起きてもおかしくないとまで言われる大地震。

神戸淡路の震災の際には、すぐにスイス救助犬協会から応援がきました。

ところが、日本は犬によっての捜索活動の理解も無く長い時間足止めされてしまいました。

それ以降、日本も救助犬の活動が必要と言う一部には理解もでき犬の嗅覚を利用して、なるべく早くに瓦礫の中から見つけ出す災害救助犬をトレーニングする機関が日本中に現在はあります。

最近は多くの会社、団体など協力をしていただくようになり、建物の解体前、解体中、解体後など色々な状況を設定し解体業者さまの休みの日を利用して訓練させてもらえるようになりました。

日々さまざまな条件の中での訓練を積み重ね、いざと言う時に一人でも多くの人を助ける事ができるように私たちは行わなければなりません。



解体途中の都営住宅にて

訓練について

日ごろから、鉄骨やコンクリートの破片の中を歩く訓練も実際には必要になるので、このような訓練は解体現場を利用させてもらい訓練しなければなりません。

何部屋もある解体前の建物の中に人を隠れさせ
どの部屋に人がいるか見つける訓練も必要になります。

時々ですが、その現場の管轄の消防との合同訓練を行なうこともあります。

ハンドラー(犬を操作する人間)や隠れ役は必ずヘルメットと安全靴を着用の上が義務です。

解体現場を使用するに当たっては、近隣の許可も必ず受ける。

怪我や事故の無いことを重点的に責任者が管理する。

訓練を行う際には必ず責任者がいる上で行う。

平地訓練

地震ばかりではなく、山菜取りやハイキングで行方不明になった人を探すのも、災害救助犬の仕事です。

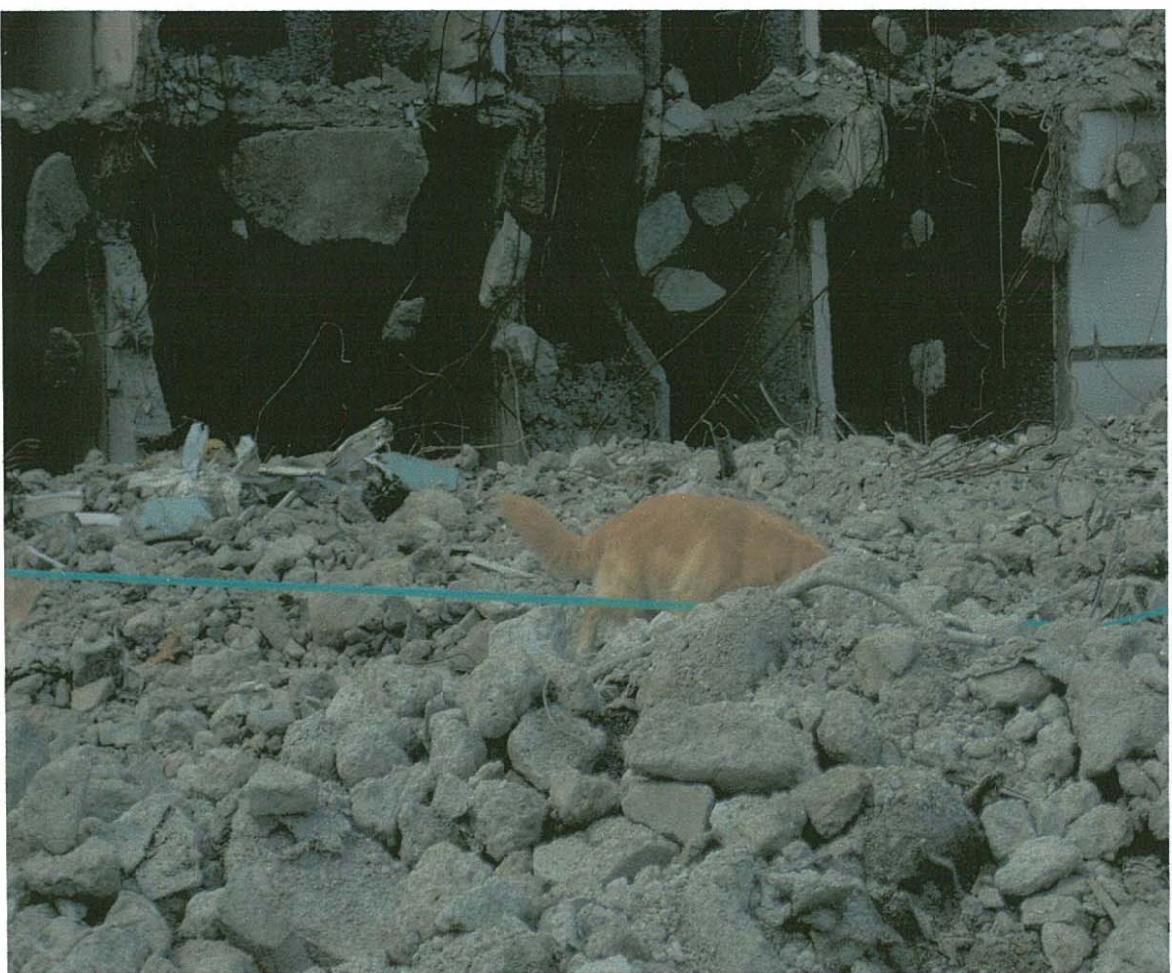
瓦礫訓練以外に、山の訓練も行なことがあります。

山の訓練の際には、近辺に野生動物がいることを考慮し必ず、熊よけ鈴やベルを犬に着用させて行う。

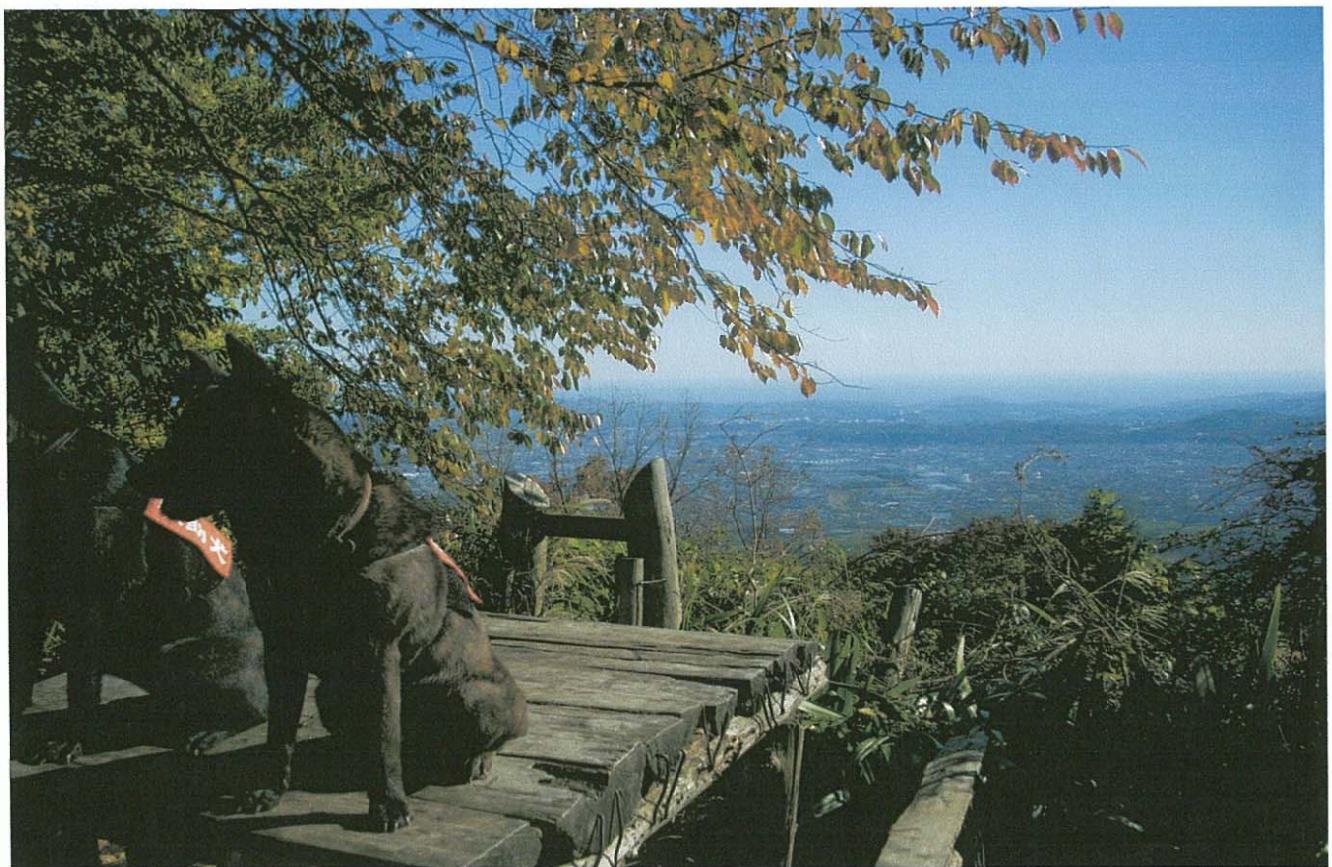
責任者は周りの地形などを把握した上で、毒をもった生物に十分注意を払い行わなければならない。



東京都下水道局 練馬 にて 瓦礫の中の訓練



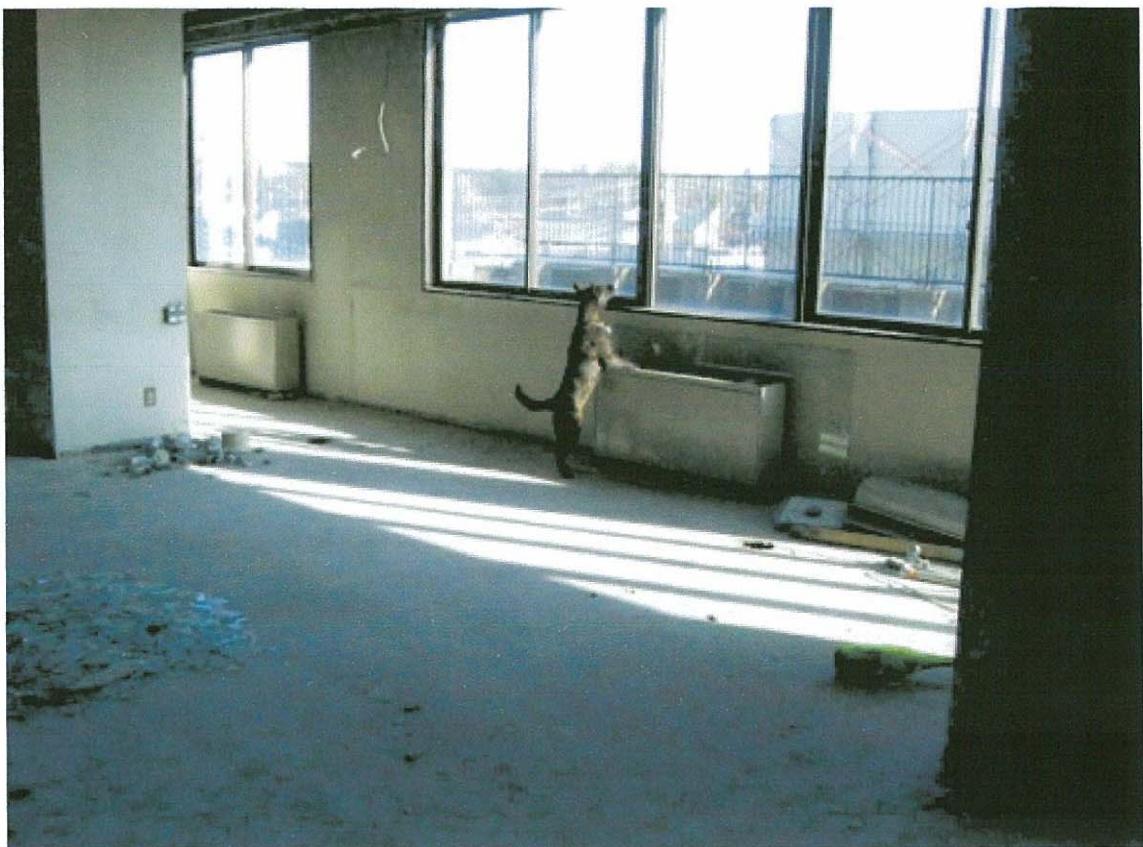
鳥山住宅にて訓練



実働 丹沢山中へ男性の捜索依頼があり二日間捜索



所沢消防と合同訓練



東京都下水道局 練馬 解体前の室内搜索